

琵琶湖には「沖島」「竹生島」「多景島」の3つの島があり、それぞれに特徴があります。特に「沖島」「竹生島」は、水と暮らし・水と祈りを表すものとして日本遺産の構成文化財になっています。

1. 沖島

琵琶湖最大の島。近江八幡市から琵琶湖の沖合約1.5kmにあり、日本で唯一、淡水湖沼の有人島で、周囲約6.8km、面積約1.53 km²です。2018年時点、300人以上が住んでおり、小学校には島外から船で登校する児童もいます。

歴史的には、天智天皇の寵臣、藤原鎌足の子、藤原不比等が奥津島神社を建立したことに始まったと言われ、琵琶湖の航行安全を守る神の島として崇拝される無人島であったとも言われています。伝承によれば、保元・平治の乱に敗れた清和源氏の落武者7人が島を開拓し、定住したのが現在の島民の祖先であると伝えられています。

島内にある浄土真宗本願寺派の西福寺には、島を訪れた真宗中興の祖・本願寺第8代蓮如上人が残したとされる「とらふみ虎斑の名号みょうごう」、「しょうしんげ正信偈しょうしんげ」が寺宝として公開されています。

湖上交通が盛んになると、戦略上の要衝として歴史書にも登場し、時の権力者から水軍として、あるいは航路の警備、輸送等の重要な任務を任せられ、その見返りに漁業権などの特権を認められてきました。現在でも、産業としては、大半の島民が漁業関連の仕事に従事しており、その暮らしぶりは琵琶湖と密接に関連しています。

島には、2軒の民宿があり、近年は沖島と堀切港を結ぶ沖島通船の運航で多くの人が島を訪れています。

湖中の島におけるくらし文化の代表として見ることができ、島の生活様式が全て重要な文化遺産です。



写真2-9-1 沖島

2. 竹生島

長浜市の沖合約6kmに浮かぶ周囲約2kmあまりの小島で、奈良・平安の時代から西国三十三所観音霊場として多くの参詣客で賑わってきました。年間を通して

多くの観光客が訪れ、琵琶湖八景の一つにも数えられています。

島内には、真言宗豊山派、巖金山の号を持つ西国三十三所霊場第三十番札所の竹生島宝厳寺があります。奈良時代、聖武天皇の勅命を受けた僧行基が、小堂に弁財天像を安置したのが始まりとされています。観音堂は重要文化財、入口の唐門は国宝に指定されています。本尊大弁財天は、日本三弁財天の一つです。

また、都久夫須麻神社の国宝の本殿は、豊臣秀頼が豊国廟（一説には伏見城の日暮御殿）を移築、改修したもので、殿内部に狩野永徳または光信筆と伝わる襖絵や絵天井をはじめ、高台寺時絵の柱・長押などが燦然と輝き、桃山文化の粋が結集されています。

古来より、浅井姫命が鎮座し、水神として崇められ、付近を通る船の安全航行を守る神として地域に根付き、今でも琵琶湖に浮かぶ神秘とロマンの島として、内外から多くの人が訪れています。



写真2-9-2 竹生島

3. 多景島

彦根市の犬上川河口部から沖合約5kmに浮かぶ周囲約600mの小さな島で、彦根港から遊覧船で渡ることができます。島全体が断崖絶壁で、岩の上に松や竹



写真2-9-3 多景島

が生い茂り風致に富んでいます。島内には日蓮宗の見塔寺や桜田門外の変で井伊直弼が暗殺された時、鮮血をにじませたという題目岩などの名所があります。

島の西方4kmには「沖の白石」が浮かび、ここからの眺めが一番美しいと言われています。

観光交流局

【西国三十三所】近畿地方を中心に点在している33か所の観音を巡礼する霊場のこと。観音を祀ってある各霊場に巡礼札を納めるので三十三札所ともいい、西国三十三観音ともいう。